

【2021（令和3）年度 全国クラブハンドボール選手権大会 西地区大会（開催地：熊本県）】

【2021（令和3）年度 ジャパンオープン ハンドボールトーナメント九州地区予選会（開催地：熊本県）】

競技上の注意と確認事項

1 競技規則

本大会は、令和3年度（公財）日本ハンドボール協会「競技規則」によって行う。

2 競技会場

- (1) 競技会場・コートのはさは、以下のとおりとする。
- 山鹿市総合体育館（40m×20m）1面 ※気象状況により空調使用
 - 山鹿市鹿本体育館（40m×20m）1面 ※空調なし
 - 山鹿市鹿央体育館（40m×20m）1面 ※空調なし
- (2) 別紙「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」を遵守して使用する。

3 種別及び参加人数

参加人数は、役員4名以内・選手16名以内の合計「20名」以内とする。

4 競技方法

【全国クラブハンドボール選手権大会 西地区大会】

- 男子・・・4チームによるリーグ戦
- 女子・・・2チームによる対戦

【ジャパンオープン ハンドボールトーナメント九州地区予選会】

- 男子・・・6チームによるリーグ戦から順位決定戦
- 女子・・・2チームによる対戦

両大会においてのリーグ戦は、勝点方式とし、勝ち点の多いチームを上位とする。
勝ち点と同じ場合は、下記の方法で順位を決定する。

勝ち点 [勝ち：2点、引き分け：1点、負け：0点]

- ① 同勝点の場合：当該「チーム間」の勝敗により、勝利チームを上位とする。
- ② ①で決定しない場合：当該「チーム間」の得失点差の多いチームを上位とする。
- ③ ②で決定しない場合：当該「リーグ」の得失点差の多いチームを上位とする。
- ④ ③で決定しない場合：当該「リーグ」の総得点の多いチームを上位とする。
- ⑤ ④で決定しない場合：当該「チーム」による抽選とする。

5 参加資格

参加資格は、実施要項「10 参加資格」のとおりとする。
臨時トレーナーについては、別に定める。※競技上の注意「16」参照

6 競技日程・時間

- (1) 競技日程は、プログラムのとおりとする。
(2) 競技時間は、下記の通りとする。

【全国クラブハンドボール選手権大会 西地区大会】

- 男子・・・「前半25分－休憩10分－後半25分」
- 女子・・・「前半25分－休憩10分－後半25分」

なお、女子の部で同点の場合は、延長戦を行う。

第1延長のみ行う。（前半5分－休憩1分－後半5分）～7mTC（5名）

【ジャパンオープン ハンドボールトーナメント九州地区予選会】

- 男子・・・予選リーグ「前半 25 分－休憩 10 分－後半 25 分」
シード決定順位戦「前半 30 分－休憩 10 分－後半 30 分」
なお、シード決定順位戦で同点の場合は、延長戦を正規で行う。
第 1 延長～第 2 延長～7 m T C（5 名）
- 女子・・・「前半 30 分－休憩 10 分－後半 30 分」
なお、同点の場合は、延長戦を正規で行う。
第 1 延長～第 2 延長～7 m T C（5 名）

【交流戦】

- 女子・・・「前半 25 分－休憩 10 分－後半 25 分」
同点の場合は、延長戦を行わない。

- (3) 競技時間は、加算式の電光表示板を使用し、コート対角で表示する。
- (4) 競技終了やチームタイムアウトの合図は、ブザー・ホーン、または笛で行う。
- (5) ①退場者の番号と入場時間は、全会場ともに「電光表示板で表示」する。
②入場の判断は、チームの責任である。記録席から合図することはなく、問いかけられても回答しない。

7 大会使用球

大会使用球は、(公財) 日本ハンドボール協会「検定球」を使用する。(モルテン社「ヌエバ X5000」)

8 トス・ユニホーム

- (1) トスは、ユニホーム確認の際に記録席前で行う。立ち合いは、チーム役員・選手のいずれでもよい。
その際、チーム役員の服装（色）及び臨時トレーナーの有無についても確認する。※11(5), 16(1)
- (2) ユニホームの確認は、第 1 試合は試合開始 30 分前とし、前試合と連続する場合は、前試合の前半終了直後、
休息が入る場合は、試合開始 30 分前に記録席前で行う。
確認の際には、試合に着用する全ての種類のユニホームを持参する。調整がつかない場合は、「競技日程」の
右側のチームが変更する。
- (3) ユニホームについては、下記のとおりとする。条件に満たない場合は当て布等で覆わなければならない。
その色はユニホームと同色でなくてもよいが、チーム全員が同色とし、同じデザインにする。
 - ①番号の大きさ（高さ）は、胸 10 cm 以上・背 20 cm 以上とする。
 - ②メーカーのロゴは、20 cm²以内の目立たないものとする。サポーター等も同様とする。
 - ③背中に氏名等の文字表記をする場合は、大きさ（高さ）10 cm 以内とする。
 - ④試合中にユニホームが破損したり、血液が付着したりして競技を続行できない時は、別のユニホームに着替えなければならない。その場合は、異なる番号でも問題ない。
交代地域にいる別のプレイヤーのユニホームと交換することも許される。
 - ⑤チームは、ユニホームとして「シャツ・パンツ・ソックス」の色をそれぞれ統一すること。
ソックスは、色が揃っていればよく、メーカーのロゴなどは問わない。
- (4) ゴールキーパー
 - ①チームで同色とする。
 - ②コートプレイヤーがゴールキーパーに代わる場合は、登録された同じ番号でなければならない。
併せて、登録されたゴールキーパーと同色のユニホームを着用することは許される。
- (5) 身につけられるものについて
 - ①短パンツの下に着用するサイクリングパンツやウォームパンツ（アンダーウェア）は、短パンツの基調色
か同色とし、チームで統一していれば着用できる。
 - ②ユニホームの外にアンダーウェアが出る場合があっても、立っている状態で見えなければ正さなくてよい。
 - ③長袖のアンダーシャツ・アーム（ロング）スリーブ等は、ユニホームに使用されている基調色と同色であれば
着用できる。
 - ④ふくらはぎのコンプレッション（加圧）サポーターは、靴下と同色であれば着用できる。
 - ⑤複数の部位を覆うサポーター等やメーカーのロゴが 20 cm²以上ものは、着用を認められない。
 - ⑥金具入り等、敵味方を問わず他の選手に危害を与えるものについては、その着用を認められない。
 - ⑦眼鏡及びスポーツゴーグル等を使用する際には、固定バンドの装着を必要とする。
ただし、金属製のフレーム等については使用できない。
 - ⑧詳細は、JHA ホームページ「JHA 保護を目的とした装具」を参照すること。

(6) 眼鏡・スポーツゴーグル

眼鏡及びスポーツゴーグルを使用する際は、固定バンドの装着を必要とする。
ただし、金属製のフレーム等については使用できない。

9 登録証・公認資格証とチーム役員・選手の確認

- (1) 事前に所定の手続きを完了した登録証のあるチーム役員・選手のみが競技に参加・出場することができる。
- (2) 交代地域には、チーム責任者1名を含むチーム役員4名以内、選手16名以内の合計20名以内が入ることができる。
- (3) チーム役員・選手の変更については、7月1日(木)までに変更申請が完了したことで決定する。
変更申請が完了した内容については、7月2日(金)各チームにメールで配信周知する。移動中やホテルでも受信できるよう通信環境を確認しておく。
- (4) ①トスの際には、TDに登録証を提出する。
提出不可、または不備(写真添付なし等)があった場合は、試合に出場・参加することはできない。
②審判員が、試合前に交代地域にてチーム役員・選手及び登録証を確認する。
試合中は、TDが登録証を管理し、試合終了後にTDから両チーム代表者に返却される。
③失格したチーム役員・選手、または、裁定委員会に提訴されるチーム役員・選手には、その場で返却しない。
- (5) チーム役員は、試合中に大会主催者が準備した「A・B・C・Dカード」を着用し、試合終了後に返却する。
チーム責任者は、「Aカード」を着用する。

10 公式記録用紙

- (1) 記録は、(公財)日本ハンドボール協会「公式記録用紙」(ランニングスコアなし)を使用する。
- (2) チーム責任者は、試合開始前に公式記録用紙に記載されている「役員氏名・カード、選手氏名・背番号」を責任を持って確認し、サインをする。
- (3) 公式記録用紙に記入されている者だけが、交代地域に入ることができる。

11 交代地域 ☆交代地域：「3.5mラインを始点とし、センターラインから12mの範囲まで」

- (1) 各チームのボール等の用具類は、競技開始前にケース等に収納して交代地域内にて管理する。
競技開始後は、ボールに触れることを含めてボールの使用を禁止する。
- (2) 飲料水は、飲み口の細い「個人の容器」を使用し、コップの使用を禁止する。
感染予防対策として、大型ペットボトルの回し飲みも禁止する。
- (3) 交代地域では、通信機器の使用を認める。
詳細は、JHAホームページ「交代地域に持ち込み可能な技術的機器に関するガイドライン」を参照する。
- (4) 試合中、選手が交代地域内で簡単な準備運動をすることは認める。
ただし、ボールの使用やコート内への指示・応援、立位のままで観戦することは不可とする。
- (5) チーム役員は、相手チームのコートプレーヤーと異色の服装でなければならない。
トスの際、ユニホームの色が確定した後に、役員の色を確認する。
- (6) チーム役員は、原則として座っていなければならない。
ただし、チーム役員1名のみが、戦術的な指示や治療を目的として、交代地域の範囲内で動くことは許される。
- (7) 観客席等から選手への指示や審判のジャッジに対する暴言等は厳禁とする。
- (8) チーム役員は、試合時もマスクを着用する。試合に出場しない待機選手も可能な限りマスクを着用する。

12 チームタイムアウト

- (1) チームタイムアウトの請求は、全試合1試合で3回請求することができ、前半後半にそれぞれ最高で2回まで請求することができる。また、後半の残り5分間は1回しか請求できず、延長戦は請求できない。
戦術的使用だけでなく、休息や水分補給の観点からも効果的に使用することが望ましい。
- (2) チームタイムアウト請求カード(グリーンカード)は、チーム役員だけが提出することができる。
請求する場合は、記録席まで持参する。提出するために、コーチングエリア(3.5m)を越えたらグリーンカードを提出しなければならない、躊躇することは許されない。
ただし、請求および受け取りと判定のタイミングにより、チームタイムアウトにならない時があるので、その場合は、グリーンカードをチームに戻す。
- (3) グリーンカードは、常にベンチに置いておかななければならない。請求する時のみ、持つことが許される。
- (4) グリーンカードは、TDが直接受け取ってよい。

13 休憩時間（ハーフタイム）

- (1) 前半が終了し、後半に向けてコートを移動する際には、前半使用した椅子（ベンチ）を消毒し離席する。後半の終了後にも同様に消毒を行う。なお、消毒液・ペーパータオル（雑巾不可）などは各チームで準備し、感染予防対策を施した
「新しい大会の運営」に全チームが相互協力する。
- (2) 休憩時間のコート使用は、次の試合のチーム練習に使用する。ただし、コートの使用時間は「9分」とし、後半開始まで残りの1分間は、コート整備等の時間とする。
※タイマーは「9分の減算表示」とし、9分のブザー合図で速やかにコートアウトする。

14 マッチオフィシャル（MO）・テクニカルデレゲート（TD）、裁定委員会

- (1) 本大会は、各試合にMOとTDを配置する。
全試合、TD 2名・MO 1名を配置する。
MO・TDは、競技委員長のもとで競技役員として各試合に立ち会い、各試合を円滑に運営するため審判員・全競技役員・補助員と協力して試合を管理する責任者である。
- (2) 本大会に裁定委員会を設置する。委員は、競技委員長・競技副委員長・審判長とする。
なお、必要に応じて関係者を同席させることがある。裁定しなければならない事案が生じた場合は、当日中に裁定して関係者に通知する。

15 次の試合のチーム役員・選手フロアへの入場

- 次の試合のチーム役員・選手は、前半が終了するまで、または試合終了後に両チームの挨拶、ベンチの消毒作業が終了するまでは、フロアへの入場を禁止する。
競技中に次試合の役員・選手が、フロアで練習をしたり、試合を観戦したりすることがあってはならない。

16 臨時トレーナー

- (1) 臨時トレーナーとは、役員登録をしていない公的資格を有するトレーナーを指す。
トスの際には、必ずMO・TDに申告する。席は、交代地域から離れた場所に設置する。
- (2) 臨時トレーナーは、交代地域やコート内に立ち入ることや応援・指示はできず、自席での対応のみとする。
選手は、一時的に交代地域から許可なく離れ、臨時トレーナー席で治療等を受けることができる。
- (3) MO・TDが、試合開始前にトレーナーである資格証の提示を求める場合があるので準備しておく。
※各会場には、医療スタッフが常駐しているので、トレーナーを帯同させていないチームは、積極的に相談・活用して良い。

17 表彰

競技2日目「山鹿市総合体育館」（男子・女子）の試合終了後に賞状授与を行う。

18 感染症対策

各チームに配信済の別紙「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」を参照し、大会期間中は、うがい・手洗い等、健康に十分配慮する。コート以外での施設内では、必ずマスクを着用する。また、施設内だけでなく、ホテルでも消毒や検温ができる準備を各チーム・各自で行う。
自己管理・感染症予防のためにホテル滞在中は、各室でも個人的に感染予防に積極的に取り組む。
大会前から練習中はもとより、生活全般で体調管理に留意する。

19 危機管理

各チーム・各個人で危機管理意識を高く持ち、各種の緊急事態に備える。

20 試合の開始と終了

開始時は、選手全員が交代地域から横1列で入場して、あいさつをする。
試合終了時は、コート中央に横1列で並んであいさつをし、その後、相手チームと交差しながら挨拶を交わすことはしない。相手選手とタッチ・握手も行わず、相手側交代地域で役員へのあいさつもしない。
試合後のあいさつは、役員同士のみとする。

21 観客席

- (1) 今大会は、スポーツ競技活動を通じた社会活動の一場面でもある。各チームの役員は、「競技上の注意」「新型コロナウイルス感染拡大防止ガイドライン」などを徹底させる。
- (2) 今大会は、「完全無観客」で開催するので、関係者以外の入館入場を認めない。
ただし、「感染症対策責任者」として各チーム2名の入場を認める。
- (3) 感染症対策責任者が、観客席から指示・声援することは禁止する。また、ラッパ・ホーン・口笛などの口腔で鳴り物を使用した応援も禁止する。
- (4) 「感染症対策責任者」は、移動中や宿舍内での感染対策の他、役員・選手の中から発熱・体調不良者などが出た場合は、「感染症対策責任者」の管理下でホテル待機や医療機関の受診などの業務に対応する。競技会場内では、チームが使用している観客席（荷物）の管理、使用した観客席や更衣室などの消毒を行う。
- (5) チーム事情により「感染症対策責任者」を帯同できない場合は、チーム役員が業務を兼務する。
- (6) チーム関係者で入館入場できる最大人数を「22名まで」とする。
(役員4名・選手16名・感染症対策責任者2名)
入館入場の際には、開催（熊本）県が指定する各書類（「入場者名簿」「感染防止対策チェックリスト」「健康チェックシート」など）を提出する。
- (7) 入館は「試合開始2時間前」、退館は「試合終了30分後」とする。
第1試合の入館は、施設開館の関係上、「8時00分」とする。
また、チーム関係者は、一斉入館・一斉退館を原則とし、観戦や試合撮影を目的として、個別に入館したり、観客席に残留したりしない。
競技1日目は、1日2試合をするチームがあるので、その際は体育館内での残留を認める。
- (8) 競技終了後、観客席を退席（退館）する際には、チームで使用したエリアの椅子・手すり等を消毒する。なお、消毒液・ペーパータオル（雑巾不可）などは各チームで準備し、感染予防対策を施した「新しい大会の運営」に全チームが相互協力する。

22 申込チームの欠場（辞退）の場合

- (1) 欠場（辞退）による代替出場は行わない。
- (2) 試合記録は、欠場（辞退）のチームの不戦敗とし、スコアは0-16とする。
- (3) 競技日程・試合開始時刻などは、原則として変更しない。

23 大会期間中に発熱者が出た場合

- (1) 発熱・咳・咽頭痛などの症状を訴える役員・選手を確認した場合は、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関に電話等で相談する。
- (2) 上記（1）を訴えた役員・選手からの聴取により、対面して食事をしたり、ホテルで同部屋だったりする等の接触があった者についても、その後の諸活動を中断させ、速やかに帰宅させるかホテルに待機させ、医療機関に電話等で相談する。
- (3) 上記（1）（2）により、現地や帰宅後に医療機関を受診した場合、即座にPCR検査結果が出ないことが想定される。チーム内外に濃厚接触者が多く特定される可能性がある場合は、チームとして、その後の参加（競技）をどうするか大会本部と協議する。

24 大会期間中の集団飲食について

- (1) 競技会場内での食事は、チーム内であってもソーシャルディスタンスを保ちながら、会話を控え、対面飲食を回避するなど、感染症防止対策に十分配慮する。
- (2) 宿泊時の夕食は、チーム全員での飲食を回避し、少人数・分散で飲食し、絶対に多人数・長時間の飲食にならないように十分配慮する。